

長岡京市史
ふるさと
ファイル

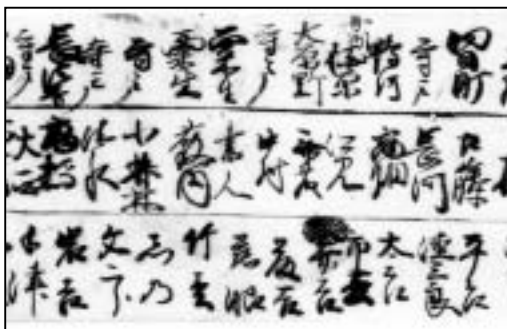
むかしの教科書



江戸時代の教育

江戸時代になると、商家だけではなく農村においても共有財産や生産活動などのため文字や計算能力が必要とされました。その要求に応えたものが寺子屋でした。寺子屋は室町時代の終わりごろから子供たち(寺子)が寺院で僧侶の指導のもと読み書きを習ったのが始まりといわれ、やがて庶民生活向上のため学習への熱意が高まるとともに全国各地に普及していき、明治の小学校設立の基盤となりました。

乙訓地域でも上羽村(京都市西京区)の心正堂や神足村の長松観、今里村の雷落庵など12カ所の寺子屋が開かれ、授業内容を書いた日記や寺子屋に通っている子供たちの名簿、明治初めの寺子屋の調査記録などが残っています。



■上羽村心正堂寺子書上 (安政7年、佐藤久夫家文書)

心正堂は乙訓でもとびぬけて大きな寺子屋でした。これは安政7(1860)年時点での寺子姓名と出身村を記したものです。

展示コーナーだより
第6号

平成14年8月
長岡京市立図書館

明治になり近代的な教育制度が整備されると、それにともない教科書も変化していきます。

展示コーナーでは市内に伝わる明治の教科書を展示し、教科書の歴史を簡単に紹介します。

🕒 展示期間

平成14年8月13日～9月29日



おうらいもの 往来物

寺子屋では、数え8歳から15歳の子供たちが師匠の書いた手本や往来物おうらいものとよばれる出版物を使って、主に日常に必要な読み・書き・そろばんを学んでいました。

往来物とは平安後期から明治初期にかけての初等教科書の総称です。平安時代には手紙の模範文例集だけで、一般的に広まったのは寺子屋が普及した江戸時代になってからのことでした。

代表的なものとして商売に必要な用具や用語を書き上げた『商売往来』などの実用書、中世の武家今川了俊が子息に与えた家訓を往来物化した『今川状』、人としての道徳や道理を書いた『童子教』など、庶民を対象とした様々な往来物が生まれ、その種類は約7000種類、女子用の往来物だけでもおよそ1500種類にもおよびました。



明治の教育改革

明治維新後、政府の実行すべき政策は山積していましたが、そのなかでも教育は、早急に日本の近代化を図るための人材づくりが必要と考えた政府にとって、重要な問題の一つでした。

政府は明治5(1872)年、「学制」を公布し、学校制度を小学(8年)、中学(6年)その上の大学と三段階に定め、小学校は国民すべてが就学するものとししました。全国的に小学校が設置されていき、長岡京市内でも明治5年に長法寺小学校が、翌年には神足小学校が創立されています。

展示資料

(8月13日~9月1日)

- ・庭訓往来(山本嘉篤家文書)
- ・御家当流女躰方女庭訓往来御所文庫万葉教訓女宝鑑(山本嘉篤家文書)
- ・輿地誌略(長岡京市教育委員会蔵)



教科書の変遷～検定制度の始まり～



◆『西洋事情』 (慶応2年、福沢諭吉著)

幕府が欧米へ派遣した使節団の一員として欧米各国を歴訪したさいに見聞した政治・教育・紙幣から蒸気車・ガス灯、郵便制度にいたるまでを述べたもの。

地理教科書として使用されました。

政府は学制公布後、師範学校を設け、小学校教師のための近代的な教育方法の伝習にあたりました。

当時、まだ教科書の編纂事業が充分に進んでおらず、小学校用の教科書は民間で出版された翻訳書や啓蒙書が大半を占めていました。これらは生徒にとって程度の高い内容であったため、教育現場からは生徒の学力に応じた学年別の教科書の編纂が望まれました。

そこで文部省は『小学入門』『小学読本』『小学算術書』など、欧米の教科書を参考に新しい教科書の編纂を行い、明治14(1881)年、地方による自由採択から各府県が一定の書式によって文部省に届け出る届出制に改めました。さらに明治19年の「小学校令」の公布により小学校の教科書は文部大臣が「検定シタルモノニ限ルベシ」と定め、ここに教科書の検定制度がスタートしたのです。

展示資料

(9月4日～9月29日)

- ・ 尋常小学校用修身教本
(長岡京市教育委員会蔵)
- ・ 尋常小学書方手本(山田彰一家文書)
- ・ 初等科音楽三(長岡京市教育委員会蔵)



検定教科書から国定教科書へ

明治 36(1903) 年、小学校令の改正により、小学校の教科書は「文部省ニ於テ著作権ヲ有スルモノタルベシ」と定められ、翌年 4 月から教科書の国定制度がスタートしました。国定教科書とは、国が学校で使用する教科書を国または国の指定する機関、団体等が著作・発行したものに限定し、その使用を特定したものです。これにより小学校教科書の内容はすべて文部省がこれを統一して全国一様となりました。

印刷出版は民間に委ねられ、文部省は教科書の見本を作って文字の大きさ・冊数・ページ数などそのとおりに作らせ、その販売は国定教科書共同販売所とすることになりました。

国定教科書は戦後の教育改革で新しい教科書が作られるまで、数度の改訂を行いながら全国の小学校で使用されました。

図書のご案内

教科書の歴史や江戸時代の寺子屋に関して詳しくお知りになりたい方は、下記の図書をお読みになってはいかがでしょうか。

- 『日本の教育の歩み』（影山昇著、有斐閣発行）
- 『尋常小学校ものがたり』（竹内途夫著、福武書店発行）
- 『江戸子育て事情』（今野信雄著、築地書館発行）
- 『教科書の歴史』（唐澤富太郎著、創文社発行）

乙訓地域の寺子屋や市域の明治・大正・昭和の学校のような、『長岡京市史』の本文編二に紹介しています。

次回の展示

まちのグラビア
～町勢要覧・市勢要覧からみる
まちの移り変わり～
(平成 14 年 10 月 2 日～12 月 1 日)